

令和４年第３回議会定例会（諸般の報告）

開会に当たり、諸般の報告を申し上げます。

はじめに「新型コロナウイルス感染症にかかる市の現状」について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株の流行による「第７波」にあり、東京都をはじめ千葉県などの首都圏では、新規感染者は減少傾向にあるものの、高い水準で感染状況が推移しており、予断を許さない状況が続いております。

千葉県では、８月４日から８月３１日までを「ＢＡ．５対策強化宣言」の期間とし、感染対策を徹底しながら社会経済活動の維持と医療のひっ迫の回避の両立を図るため、県民の皆様へ協力を求めているところですが、依然として、医療提供体制への負荷が高い状況が続いていることから「ＢＡ．５対策強化宣言」の期間を９月末まで延長とすることを決定しました。

「第７波」においては、本市でも、８月のひと月で新規感染者数が２，１７０人と過去最多を更新し、市内医療機関での発熱外来の予約や受診も困難となっている状況です。このような中、６０歳以上を対象とした４回目のワクチン接種は、対象者、約２１，４００人のうち約１３，６００人、約６３％の方が接種を終え、新規感染者のうち高齢者が占める割合は少ないです。夏休みが終わり、若い世代間における感染拡大も懸念されるところですが、市としましては、引き続き、ワクチン接種の呼びかけや基本的な感染対策について啓発をおこない、市民の皆さまの命と健康を守る取組みを進めてまいります。

さて、コロナ禍により２年間、中止しました「梨マラソン大会」や、市最大のおまつりである「白井市ふるさとまつり」を、今年は感染症予防対策を徹底したうえで開催することにいたしました。コロナウイルスと共存をしていく必要がある現状におきまして、感染拡大防止と社会経済活動の両立、そして楽しみや人々の触れ合う機会を確保するため、職員ひとり一人が知恵を出し、工夫をしながら業務に取り組んでいるところでございます。

国では、感染者の法的分類や全数把握、制限の緩和などの検討がなされ、新型コロナウイルス感染症にかかる対応は新たなステージを迎えているところですが、未だ先が見えない状況にあります。引き続き、市民の皆様、事業者の皆様、そして行政と「オール白井」でウイズ・コロナ時代に則した行政運営を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

次に「第７３回印旛郡市民スポーツ大会」について申し上げます。

本年７月３日から２４日にかけて、第７３回印旛郡市民スポーツ大会が開催されました。この印旛郡市民スポーツ大会は、印旛郡市におけるスポーツの普及・振興や健康増進と体力の向上を図ることなどを目的として、開催されております。新型コロナウイルス感染症の影響により、３年ぶりに開催された今大会は、印旛郡市の８市町を会場として、１７の競技で、激戦が繰り広げられました。

本市からは１５の競技において、約３０４人が出場され、そ

のうち「女子・卓球」、「男子・バドミントン」、「柔道」において見事、優勝を果たされ、総合成績では佐倉市、印西市に次ぐ第3位と、大変健闘されました。改めまして、体育協会の役員の皆様をはじめ、選手の皆様に、敬意を表します。本市のスポーツ振興が、このような形で実を結んだことは大変喜ばしいことで、健康づくりはもとより活気あふれるまちづくりに大きな影響を与えてくれるものと思います。

市としましても、引き続き、市民の皆様が生涯にわたりスポーツに親しむことができるよう環境づくりに努めてまいります。

次に「令和5年度予算編成方針」について申し上げます。

本市にとって、長年の懸案であった北総鉄道の運賃値下げが実現となり、さらには富士地区に防災機能を備えた都市公園の整備に見通しがつくなど、今後の発展に弾みがつく中、中長期的な観点で市財政を見ると、公共施設の老朽化や人口減少など、新たな局面に対応する財政運営が求められています。

また一方では、ゼロカーボンシティの実現や農業推進とのバランスを考えながら企業誘致を積極的に進め持続可能なまちづくりに挑戦する等、第5次総合計画の実現に向け効果的な事業を展開していくことも課せられています。加えて、少子高齢化が進展する中、地域コミュニティの再構築も必要です。

このような中、令和5年度予算については、将来に過大な負担を残すことの無いよう、「白井市をもっと豊かにし、子供たちの世代へ引き継ぐこと」を目指し、予算を編成することといたしました。また、予算総額204億円を上限とし、3つの基

本方針を掲げております。

主な内容としまして、1つ目は、後期基本計画の着実な実施です。令和5年度は、第5次総合計画後期基本計画の3年目にあたることから、これまでの成果や課題を検証するとともに、創意工夫し着実に実施することとします。また、計画策定時には想定していない新たな課題が生じた場合は、迅速に対応することとします。

2つ目は、市民生活の安全・安心の確保です。長引くコロナ禍においても、感染予防対策を徹底したうえで、子どもや高齢者などすべての市民が、健康で安全・安心な日常生活を送れるための取り組みを進めてまいります。また、原油高・物価高騰などにより市民生活に大きな影響が生じていることから、市民目線に立ち、その生活を守るため、市独自の支援策を実施してまいります。さらに、公共施設や通学路など市民生活に重要な道路については、各計画や点検結果などに基づき、大規模改修等を行ってまいります。

3つ目は、将来を見据えた行財政運営の実現です。将来を見据え、市税等の徴収率の向上を図るほか、オール白井で企業誘致を推進し新たな財源の確保や、職員の働き方改革による魅力ある職場環境を整備し、併せて人材育成を図り、組織力を高める取り組みを進めてまいります。

以上申し上げました予算編成方針に基づきまして、今後、予算編成作業を進めてまいります。

最後に、「北総線沿線地域活性化協議会事業北総線沿線活性化トレインの運行」について申し上げます。

北総線沿線地域活性化協議会につきましては、白井市を含む北総線沿線の自治体、千葉県及び北総鉄道で構成しており、本年度は、白井市が会長市を務めさせていただいております。

北総線沿線地域活性化協議会では、北総鉄道の運賃が令和4年10月に通学定期をはじめとして大幅に値下げされることを契機とし、沿線地域の魅力発信により更なる活性化を図るため、令和4年8月31日から令和5年2月28日までの約6ヶ月間、沿線の魅力等の広告を車体に施した北総線沿線活性化トレインの運行を開始いたしました。

外装には、千葉県や沿線各市のマスコットキャラクターやキャッチフレーズなどをあしらったオリジナル広告などを掲出し、内装には千葉県及びPRを希望する市が、車内広告スペースに市のPR広告を掲出しており、白井市も市の魅力を存分に表現した広告を掲出しております。広告を掲出した車両が、都心や羽田空港へ運行することから、本市にとって市の知名度向上や魅力の発信など絶好のPRの機会と考えているところでございます。また、活性化トレインの運行開始にあたり、8月31日、印西牧の原駅において、出発式を実施いたしました。

本事業が、沿線地域の更なる活性化の大いなる第一歩となり、千葉県内外に誇る地域に発展させていくため、今後も千葉県や沿線自治体、そして北総鉄道株式会社と緊密に連携し、沿線地域の活性化に努めてまいります。

以上で諸般の報告を終わります。